



バドミントン 競技公式ルール



目次

1.	適用するルール	3
2.	公式種目	3
	個人技能競技	3
	シングルス	3
	ダブルス	3
	ユニファイドスポーツ® ダブルス	3
	ミックスダブルス	3
	ユニファイドスポーツ® ミックスダブルス	3
3.	競技ルール	3
3.1	適応ルール	3
3.2	ユニファイドスポーツ® ダブルス	3
3.3	個人技能競技	3
3.3.1	ハンドフィーディング	3
3.3.2	ラケットフィーディング（オーバーヘッドストローク用）	3
3.3.3	“Ups”コンテスト	4
3.3.4	フォアハンドストローク	4
3.3.5	バックハンドストローク	4
3.3.6	サービス	4
3.3.7	最終成績	4



1. 適用するルール

スペシャルオリンピックス(SO)のバドミントン公式スポーツルールは、全てのスペシャルオリンピックスバドミントン競技において適用される。国際的なスポーツ組織として、スペシャルオリンピックスは国際バドミントン連盟(BWF)のルール(参照: <http://www.bwfbadminton.org/>)を基に、スペシャルオリンピックス公式スポーツルールを定めた。スペシャルオリンピックスのバドミントン公式スポーツルールおよびスポーツルール第I章 総則と矛盾する場合以外はBWFあるいは国内競技団体(NGB)のルールが採用される。矛盾する場合は、スペシャルオリンピックスのバドミントン公式スポーツルールが適用される。

参考:スペシャルオリンピックス スポーツルール第I章 総則

行動規範、トレーニング基準、医療および安全面の必要条件、ディビジョニング、表彰、上位レベルの競技会への進出条件とユニファイドスポーツを参照してください。

2. 公式種目

これらの種目は、あらゆる能力のアスリートに競技する機会を提供することを目的としている。各国プログラムは提供する種目、および必要に応じて、それら種目の運営方針を決定することができる。コーチは、それぞれのアスリートの技術と興味に応じて、適切なトレーニングの提供と種目を選択することに責任がある。

以下はスペシャルオリンピックスにおける公式種目の一覧である。

- 個人技能競技
 - シングルス
 - ダブルス
 - ユニファイドスポーツ® ダブルス
 - ミックスダブルス
 - ユニファイドスポーツ® ミックスダブルス

3. 競技ルール

3.1 適応ルール

- 3.1.1 車椅子を使用しているアスリートは、左右のどちらのサービスエリアからでも、オーバーヘッドサービスを使う選択権を有する。
- 3.1.2 車椅子を使用しているアスリートのサービスエリアは、通常のサービスエリアの半分の距離とする。

3.2 ユニファイドスポーツ® ダブルス

- 3.2.1 各ユニファイドスポーツ® ダブルsteamは、アスリート1名とパートナー1名からなる。
- 3.2.2 アスリートとユニファイドパートナーは、同程度の年齢と同程度の競技能力でなくてはならない。同程度の年齢と能力に関する詳細については、スポーツルール第1章総則 14.1.2を参照のこと。
- 3.2.3 各チームで、それぞれのサービスの順番とコートでの位置を決めることができる。

3.3 個人技能競技

3.3.1 ハンドフィーディング

- 3.3.1.1 フィーダー(シャトルを出す人:通常はコーチ)は、一度に5個のシャトルを手に持ち、そのシャトルをダーツのように、1個ずつアスリートへ向けて投げる。
- 3.3.1.2 アスリートは飛んできたシャトルをラケットで打ち、1回打つごとに1ポイントとする。

3.3.2 ラケットフィーディング(オーバーヘッドストローク用)

- 3.3.2.1 フィーダーは、一回の試技につき5個のシャトルを持ち、1個ずつアスリートに向けてアンダーストロークを使い、高くシャトルを打ち上げる。



- 3.3.2.2 シャトルを1回打つごとに1ポイントを得る。
- 3.3.2.3 アスリートがシャトルを打てなかった場合、あるいは打てた場合、すぐに次のシャトルが投げられカウントを続ける。
- 3.3.3 “Ups” コンテスト
 - 3.3.3.1 アスリートは、シャトルを繰り返し空中へ向けて打つ。
 - 3.3.3.2 30秒の間で、1回打ち上げるごとに1ポイントとする。
 - 3.3.3.2 シャトルが地面に落ちた場合は、別のシャトルを与え、カウントを続ける。
- 3.3.4 フォアハンドストローク
 - 3.3.4.1 アスリートは、コートの中真ん中のところに立つ。フィーダーはネットの反対側に立つ。
 - 3.3.4.2 フィーダーはアンダーハンドサーブで、アスリートのフォアハンド側へシャトルを打つ。
 - 3.3.4.3 アスリートは、5回打つことができ、フォアハンドストロークでネットを越えて反対側のコートにうまく打ち返せた場合、1ポイントを得る。
- 3.3.5 バックハンドストローク
 - 3.3.5.1 フィーダーがアスリートのバックサイド側へシャトルを打つこと以外は、アスリートへのシャトルの出し方および得点基準は、フォアハンドストロークの要領が適用される。
- 3.3.6 サービス
 - 3.3.6.1 アスリートは、どちらか一方のサービスコートから5回のサービスを行う。
 - 3.3.6.2 アンダーハンドサービスを打つことができなければ、オーバーハンドサービスを行ってもよい。
 - 3.3.6.3 サービスが正しいサービスボックス内に入るごとに、1ポイントを得る。
 - 3.3.6.4 サービスがサービスボックスから外れた場合は、0ポイントとする。
- 3.3.7 最終成績
 - 3.3.7.1 最終得点は6つの個人技能競技それぞれのスコアの合計により決められる。

